

# 「あすなろ」便り

NO57

2009. 3. 12

発行 あすなろ

電話 046-254-2005



## 和田先生講演会 「不登校・ひきこもりの子どもとの関わり方」

2月24日(火)和田重宏氏講演会は、一般参加45名でスタッフを含めると57名の参加でした。座間地区で行われたファミリーサポート事業で、最も多い参加でした。これは、「不登校・ひきこもり」が多くなってきており、この問題への関心が高くなってきているということの、表れではないでしょうか。和田先生の講演の内容も「不登校・ひきこもり」は社会問題であり、社会現象として捉えている事でした。その理由として、便利になった社会環境は、人との繋がりを少なくし、コミュニケーション不足になっていることや、実体験の積み重ねがなく体を動かすことがなくなってきている事、家庭生活も親子がバラバラで団樂の場が少なくなっている事等でした。不登校している子も、登校している子ども達もこの点で違いがないのです。不登校の親子にとって「不登校・ひきこもり」は健全であり、人生にとって「不登校」は必要だったという肯定感を持たせた時、壁を乗り越えた実感できるようになるという和田先生の話は、印象的でした。



「あすなろ」としても学校以外の居場所として、親も子も安心して居られる場所を提供し、畑仕事や食事作り等体験活動を通して成長し社会へ巣立っていく子ども達を、見守っていきたく願っております。

## 恒例のそば打ち会&麦踏み

(ファミリーサポート事業 親の居場所)



3月5日(木) 前日からの雨も上がり、すっきりした青空と暖かい日差しの下、恒例になった手打ち蕎麦作りを行いました。今年の蕎麦の収穫は18キロ程、そば粉にすると12キロになりました。

今年はぬれたままでの脱穀作業となり、葉や茎がたくさん混じり、それを天日干しにして何度も何度も分別作業の繰り返しと、とおみがけなど綺麗な蕎麦の実にするまでが大変でした。

でもその作業があつたれ場こそ、美味しいお蕎麦を食べることが出来るのでしょうか！

当日は、ファミリーサポート事業継続参加の方が10名、見学者の親子、小さいお子さん連れのボランティア、大学生のボランティア、パソコンの先生、地域の方々、毎週のように参加して下さるボランティア等、子供達4名とスタッフも合わせると30名ほどになり、大勢で賑やかな蕎麦うちになりました。

皆さん何度も何度も大きく伸ばす事や大きい蕎麦切り包丁を使うのに苦労した様子です。豚汁等も加わり、おかわりする子供もあり、皆で美味しく頂きました。

お母さん達のグループも出来、話が弾んでいるようでした。「皆さんと話すことにより、気持が楽になり、思い切って参加して本当に良かった」の涙ながらの声に、「やって良かったね」と私達も「ホロリ」皆さんに元気を頂きました。

これを機に、あすなろの活動(小麦やそば作り其の他)に、親子で参加して下さる人の輪が大きくなる事と、皆さんの居場所となる事を願いたいと思います。



元気に育って収穫できることを願って、若い方々には「麦ふみ」にも参加していただきました。



